

I 野菜の概況

1 野菜の需給動向

野菜の1人1年当たりの消費量（供給純食料）は近年減少傾向で推移し、平成16年度は93.8kgとなったものの、野菜飲料の摂取頻度の増加等により平成17年度（概算）は96.2kgに増加した。

また、野菜の生産量は高齢化の進展等により、減少傾向で推移しており、平成17年度は、前年に比べ13万トン減少し、1248万トンとなった。

一方、野菜の輸入量は、近年増加傾向で推移し、平成17年度の野菜の輸入量は337万トン（生鮮換算ベース）で、前年比107%と大幅に増加した。

この結果、平成17年度（概算）の野菜の自給率は、前年度から1ポイント低下して79%となった。

表1 野菜の需給動向

(1) 平成17年度（概算値）

人口 127,757千人（平成17年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内 生産量	外国貿易		在庫の 増減量	国内消費 仕向量	国内消費仕向量の内訳					
		輸入量	輸出量			飼料用 加工用 種子用	減耗量	粗食料		純食料 総数	供給数量 1人1年 当たり
								総数	1人1年 当たり		
野菜	12,477	3,367	10	0	15,834	0	1,608	14,226	111.4	12,288	96.2
a. 緑黄色野菜	2,685	1,446	2	0	4,129	0	394	3,735	29.2	3,448	27.0
b. その他の野菜	9,792	1,921	8	0	11,705	0	1,214	10,491	82.1	8,840	69.2
野菜	12,477	3,367	10	0	15,834	0	1,608	14,226	111.4	12,288	96.2
1. 果菜類	3,621	1,548	2	0	5,167	0	503	4,664	36.5	3,862	30.2
うち果実的野菜	887	75	0	0	962	0	114	848	6.6	571	4.5
2. 葉茎菜類	5,799	1,122	2	0	6,919	0	865	6,054	47.4	5,292	41.4
3. 根菜類	3,057	697	6	0	3,748	0	240	3,508	27.5	3,134	24.5

資料：農林水産省「食料需給表」

(2) 平成16年度（確定値）

人口 127,687千人（平成16年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内 生産量	外国貿易		在庫の 増減量	国内消費 仕向量	国内消費仕向量の内訳					
		輸入量	輸出量			飼料用 加工用 種子用	減耗量	粗食料		純食料 総数	供給数量 1人1年 当たり
								総数	1人1年 当たり		
野菜	12,344	3,151	4	0	15,491	0	1,565	13,926	109.1	11,978	93.8
a. 緑黄色野菜	2,568	1,234	1	0	3,801	0	374	3,427	27.5	3,242	25.4
b. その他の野菜	9,686	1,917	3	0	11,600	0	1,191	10,409	81.5	8,736	68.4
野菜	12,344	3,151	4	0	15,491	0	1,565	13,926	109.1	11,978	93.8
1. 果菜類	3,627	1,484	1	0	5,110	0	496	4,614	36.1	3,802	29.8
うち果実的野菜	901	81	0	0	982	0	116	866	6.8	583	4.6
2. 葉茎菜類	5,645	1,068	0	0	6,713	0	835	5,878	46.0	5,121	40.1
3. 根菜類	3,072	599	3	0	3,668	0	234	3,434	26.9	3,055	23.9

資料：農林水産省「食料需給表」

(3) 食料自給率

（単位：%）

	昭和40年度	50	60	平成7年度	11	12	13	14	15	16	17（概算）
供給熱量ベースの総合食料	73	54	53	43	40	40	40	40	40	40	40
野菜	100	99	95	85	83	82	82	83	82	80	79

資料：農林水産省「食料需給表」

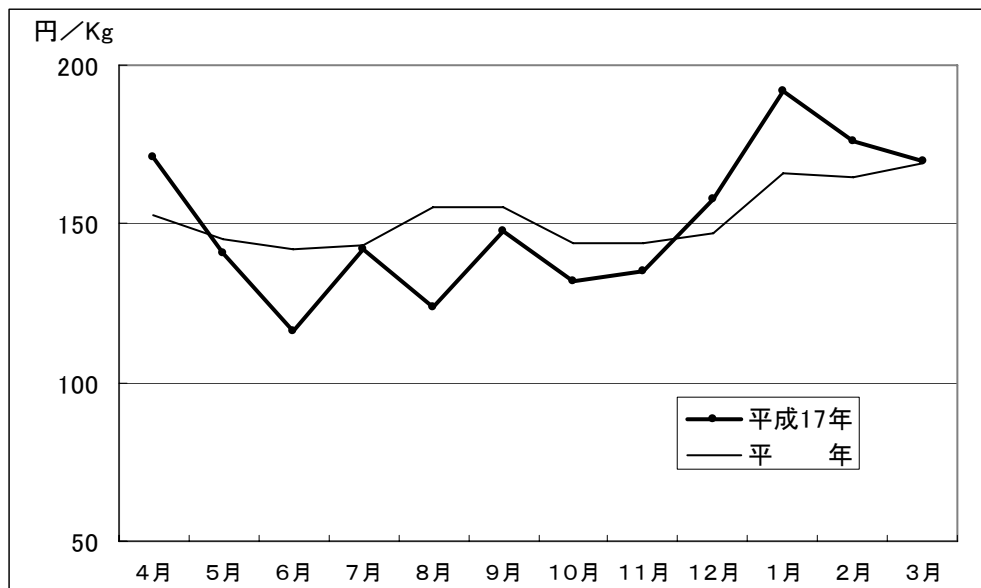
2 野菜の価格動向

平成17年産の春野菜は、4月は昨年末の台風等の影響が一部に残ったことや2、3月が低温・日照不足傾向であったことから平年を上回る価格で推移したが、6月以降の気温の上昇及び適度な降雨で生育が急速に回復したことから、キャベツ、はくさい、レタス等の葉茎菜類を中心に軟調な価格となった。一方、たまねぎ、ばれいしょ等は2、3月の低温等の影響から価格は堅調に推移した。

夏秋野菜については、全国的に適度な降雨などの気象条件に恵まれたため、きわめて順調に生育したことから、価格はキャベツ、レタス等の葉茎菜類を中心に、平年を下回って推移した。

秋冬野菜は、引き続き好天により生育が順調に推移したことから平年を下回る価格で推移していたが、12月に入り全国的に寒波・降雪となったことから平年を上回る価格となった。

図1 指定野菜(14品目)の卸売価格の動向(東京都中央卸売市場)

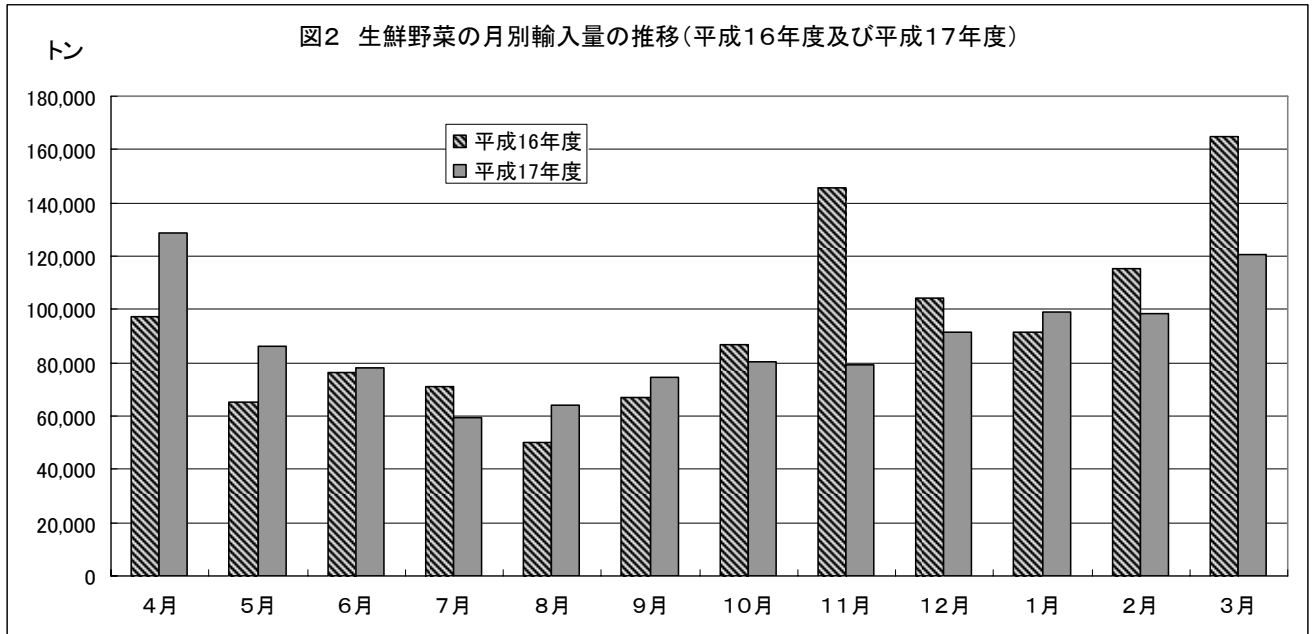


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成17年	171	141	116	142	124	148	132	135	158	192	176	170
平年	153	145	142	143	155	155	144	144	147	166	165	169

資料：東京青果物情報センター「東京都中央卸売市場における野菜の市場別入荷数量及
注：平年とは、過去5カ年（平成12年度～16年度）の月別価格の平均値である。

3 野菜の輸入動向

平成17年度の野菜の輸入量は337万トン（生鮮換算ベース）と前年比107%と増加したものの、生鮮野菜は、106万トンと前年比94%と減少した。これは、生鮮野菜の価格が比較的軟調に推移したためである。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成16年度	97,173	64,959	76,586	71,138	50,242	67,217	86,520	145,656	104,330	91,545	115,069	164,698	1,135,133
平成17年度	128,675	86,366	78,317	59,494	64,176	74,720	80,591	79,050	91,574	99,095	98,292	120,759	1,061,109
対前年比													93.5%

資料：財務省「貿易統計」